

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		令和5年度第1回スポーツ推進審議会
開催日時		令和6年1月22日（月） 18:30～20:30
開催場所		市役所 別館大ホール
委員名		（1）出席委員 生田会長、篠崎委員、内山委員、増井委員、 中生委員、的場委員、藤岡委員、角光委員 欠席委員 阿部副会長、都島委員
所管課職員職氏名		郷育推進課長 谷口 篤 郷育推進課スポーツ文化振興係長 長友 伸二 郷育推進課スポーツ文化振興係 岩野 修人
会 議	議 題 （内 容）	○福津市スポーツ推進計画アクションプランの成果 報告について ○次年度の取り組みについて
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	—
	傍聴者の数	0 名
	資料の名称	○令和5年度第1回福津市スポーツ推進審議会次第 ○福津市スポーツ推進審議会名簿 ○福津市スポーツ推進計画の体系〈参考資料〉 ○福津市スポーツ推進計画アクションプラン 2019年度～2023年度
会議録の作成方針		<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録
		<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録
		<input type="checkbox"/> 要点記録
		記録内容の確認方法 会長による確認
その他の必要事項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

開会の言葉

（事務局挨拶、配布資料の確認）

1. 委嘱状公布

（補欠委員 2 名に対し、委嘱状の交付）

2. 委員自己紹介

（補欠委員 2 名の自己紹介）

3. 議事

【会長】

今日は、議事（1）はこれまでの振り返りでいいと思う。議事（2）については、2024 年度からの新しいプランを今年度中に策定する必要があると思うので、今日のほかにもう 1 回は皆さんにお集まりいただいて、新しいアクションプランについて審議いただくことになると思う。

それでは議事に移る。議事（1）について、事務局から説明を。

【事務局】

それでは、アクションプランの 2022 年度の実績報告を説明します。

（アクションプランの概要と実績報告を説明）

駆け足で説明いたしました。何かお気づきの点や、ご意見・ご質問があればお願いします。

【会長】

昨年の 3 月に 2021 年度分の実績報告を受けて、今日は 2022 年度分ということで、数値としては大きな変化も見られている。こういった視点でもいいので、ご意見いただきたい。

【委員】

「情報発信の方法」（1-①、3 ページ）について、体育協会では現在、郷育推進課と随時話を進めているところである。市の公式ホームページを活用するという動きになっていたと思うが、進捗状況はどうか。

【事務局】

現在、体育協会に加入している団体などを紹介するページを作成中です。ただし、これは 2023 年度の動きになります。

【委員】

それを活用して、まずどういう会場で活動しているのかを皆さんにお知らせしたい。体育協会の各協会練習会場を持っている。これに対しての情報が行き届いていない。問い合わせはあるが、それをいつでも情報提供できる

状況を作りたい。大きな大会は広報誌でお知らせしているが、やはり、その競技ができる会場を示すというのが大事だと思う。やりたいけど活動場所が分からないということがあるので、体育協会として、いつ、どこでやっているのかぐらいの情報発信、その先を言えば、大会の案内などもホームページに載せたいと考えているが、まずは練習会場を掲示したい。ただ、体育協会独自のホームページを作るのは経費的に困難な状況があるので、市公式ホームページを活用できれば、一つステップが上がると考えている。

【会長】

情報収集・提供は、いろいろな場面で関係しそうだが、体育協会にそういうニーズがあって動きがあるということは、次期アクションプランにも繋がりそうなような意見だと思う。

【委員】

「身近なスポーツ活動の応援」（2-④、13ページ）で、プリンセス駅伝だけ計上されているが、成人祝賀駅伝のボランティアも同様に公募されているので、そこはプラスして計上してもいいのでは。プリンセス駅伝も成人祝賀駅伝も、走っている選手を応援している点では一緒だと思う。

【会長】

ここはあくまでトップクラスの選手の応援というところで事業としてはプリンセス駅伝の数字を計上しているが、ボランティアという視点で数字が挙がってくるようにしたほうがいい。

【委員】

スポーツ推進委員がやっている「小・中学校におけるスポーツ活動支援」（1-③、5ページ）についても、本当に派遣が必要か各学校の判断で行われているが、それよりも、市から積極的にPRをした方が行き届くのではないか。今回派遣希望があったのは1校のみ。学校側には通知しているが、希望するかしないかは自由で、PTAの方が測定補助として参加するかしないかも学校に任せてあるが、派遣してもらったほうが学校側としても助かるはず。

【会長】

これと連動して、「スポーツボランティアの育成」（3-②、15ページ）の補助員養成講座を考えた時、今、市内に補助員の研修を受けた方はいないということか。

【委員】

スポーツ推進委員は受けた。

【会長】

補助員認定制度のようなライセンスがあるのか。

【委員】

以前は県内のスポーツ推進委員を対象に新体力テスト測定実技研修があったが、今は行われていないようだ。PTAの方に指導する学校にばらつきがあれば、測定値に疑問が生じる。せっかくだったら、そこをきちんと指導できたらもっと充実する。

【会長】

さらに積極的に補助員が声掛けできれば、各学校も安心してお任せしやすいという形は出てくる。実際のボランティアや補助員、PTAの方の人数の総数が上がってくる仕組みがあるといい。

【委員】

小学校によってはPTAに呼び掛けていないところもあったので、どの小学校にも一律PTAに声掛けしてもらいたい。子どもたちも自分の親や知っている子の親が来ていると、すごくやる気を出す。事前にPTAに指導するにしても、その方々が当日来られないかもしれないが、声掛けだけはしてほしい。

別件で、「スポーツを通じた地域間・世代間交流の促進」(4-①、17ページ)で300歳ソフトボール大会と成人祝賀駅伝大会の2つが挙げられているが、これは主な事業だけを挙げているのか。ソフトバレーボール大会や区対抗バレーボール大会等も実施計画と実績に加えてみてはどうか。

【事務局】

ここでは市主催事業に限定して2つの大会を挙げています。ソフトバレーボール大会や区対抗バレーボール大会は体育協会の主催行事です。市主催ではない競技があることは当然分かっていますが、実際のその参加者数などが、こちらでは把握しないものもあったので計上していません。数の把握ができれば計上する余地はあると思います。

【委員】

体育協会主催行事だけでも50大会ぐらいはやっているのだから、それを計上してもいいのではないかな。かなりの数字が見込める。区対抗バレーボール、ソフトバレーボール大会、グラウンド・ゴルフ大会はざっと計算しても600人ぐらいは参加している。

【会長】

この審議会では、福津市全体を見渡したいので、今のように2つだけでなく、いろいろなものが情報としてはあった方がよいと思う。

例えばHPを整備というところがあるので、実施するときに、いつ実施して、何人参加して、ボランティアは何名参加したみたいな情報をHPにアップするといいかも。事前に実施計画をアップして、あとで実施報告も簡単にメールなどで情報提供して、そうすればベストではないか。数字をここに入れば終わりになるし、団体の活動実績が蓄積されていくので、そこに情報も発信するし、こちらとしては、その参加者数とかも聞かなくても、そこに情報提供してもらえば協会は楽になる。そういう報告をしたり、登録されたりする仕組みがあるといい。それこそ週1回スポーツを実施する

人の割合ってというのが指標になっているので、それを把握する上でも、根拠資料にもなり、一覧できると市民の方にもいいかもしれない。自分も参加してみよう、見に行ってみようという人が出てくるかもしれない。今の実態をみながら、全部は収集できないかもしれないが、次のアクションプランにも繋がりそう。

【委員】

「障がい者スポーツの推進」(1-⑥、8ページ)のところで、去年は実施1回とあるが、これは一般的にお知らせがあったのか。どういうことをしたのか聞きたい。

【事務局】

この1回というのは、『体力チャレンジランキング in ふくつ』といって、市内の小学生や、保護者の方も含めて体力テストにチャレンジするというイベントのことです。このイベントの一環で参加者に対してニュースポーツを一部紹介しました。

【委員】

障がいがある人でも、子どもだったら学校でスポーツをするし、施設に入っている人だったら、その中でのスポーツをする機会も多少あると思うが、地域で自宅にいる障がい者はなかなかスポーツをやる機会がない。スポーツは荷が重すぎたり、ちょっとやってみようという気持ちがどうしても難しかったり感じる人が多い。そういう人でも楽しめるような、言わばレクリエーション的な、ゲーム感覚でできるようなものはないのか。

【委員】

体育協会の中にレクリエーション協会があり、ニュースポーツの振興や、ニュースポーツを用いた運動の紹介などを行っている。例えば身体障害者福祉協会がレクリエーション協会に、ニュースポーツの体験をしてみたいので来てほしいなど、出前講座として活用することが可能だと思う。

【委員】

グラウンド・ゴルフやボッチャなどをするために、身体障害者福祉協会の会員が春日市や久留米市など遠方に行っている。それだけ動ける人はまだいいが、なかなか行けない人もいるので、もし福津市内でできれば何かやろうといった声も上がっていると思う。場所や条件は大変かもしれないが、来年度は実施できたらという希望を会員とは思っている。

【委員】

ボッチャの用具は福津市にもある。障害者だけでなく高齢者でもできるスポーツ。たしかに、まだまだ情報発信ができていないと感じる。どうやって発信するかというのも一つの課題だ。レクリエーション協会も数多く活動しているが、情報がじゅうぶんに行き届いておらず、参加者も少ないので、そこも改善していきたい。

【委員】

去年12月に、宗像市にパラバドミントンという競技のすごく有名な車椅子の選手が来て、10代から70代ぐらいまでの障害者が集まって一緒に楽しんだ。それを見たら、こういう場所があったらやってみたいという気持ちになった。だから、そういった選手を呼んでそこで一緒に経験したりできたらいいと思う。

【会長】

それも次のアクションプランに繋げていければと思う。1-⑥を読んでみると、『障がいの有無に関わらず…』という文言があるので、例えば小・中学生でも、部活動をしている子も、スポーツにチャレンジできてない子もみんなと一緒に楽しめる。多様性とか将来この地域で暮らしていくときに、いろいろな機会の中の一つになる。そこに年長者の方も加わって、老若男女いろいろな人が楽しむ場としての切り口にニュースポーツがなるかもしれない。

【委員】

スポーツ推進委員の研修会でも、以前ボッチャの研修があった。出前講座などであれば協力はできると思う。

【事務局】

ニュースポーツのパンフレットがありますので、その中からこれをしてみようというものがあれば、レクリエーション協会にアプローチすれば来てもらえると思いますし、市内にも用具がたくさんあります。

【会長】

ニュースポーツを切り口にライフステージに応じたというのが繋がる可能性がある。情報共有するだけで随分あったというのがわかった。

【委員】

今年、福岡県レクリエーション協会から福津市で高齢者ができるダーツをやりましょうという申し入れがあり、体育協会でも後援予定である。

【委員】

スポーツ推進委員の研修で以前、障害者向けの体力測定の研修もあった。

【会長】

この機会に障害の有無に関わらず、子ども達にもそういう機会があると、将来的には視野が広がり、いろいろな活動があると知ってもらえる良い機会になる。

【委員】

市内の小学校に伺った際、子どもに車椅子バスケットボールの体験をしてもらったことがあり、とても喜んで理解が深まった。

【会長】

スポーツ全体を考えたら、プロスポーツのような競技スポーツもあっていいし、こういうニュースポーツも、次の計画では入っていいかもしれない。いろいろな人がスポーツに参加できるという形になる。実際に体育協会でいろいろな活動を実施されているというところが一番大きいと思う。

【委員】

「大学等の人的資源の活用」(3-③、16ページ)において、学校では体育の授業や運動部活動などでスポーツをする機会というのは学習の中身としてもあるが、大学等の人的資源の活用はなかなか実施されていない。以前、宗像市ではサニックスがラグビーチームを持っていたので、よく宗像市内の小学校ではプロのラグビー選手がタグラグビーを教えに来るというすごくいい機会があり、福津市の小学校でも部分的にあやかっていたことがある。そういった小・中学生が憧れる人たちが体育の授業や部活動も含めて、指導者としてやってきて、先生以外の人から学ぶ・習うという機会を保障していきたいと思う。福岡教育大学との連携授業も部分的にあるが、スポーツに関するものも、運動部の学生と関わりができるといいと思う。福間中学校では生徒数がすごく多くなり、体育の学習や部活動において、空間的な問題や人数的な問題で機会が保障できない中で、こういった質的な側面に関しては、外部人材との関わりで、運動の質の向上に合わせて連携というのはぜひ進めていきたいと思う。

いろいろな世代間での運動の関わりというのがある。花見地区は今でも年1回運動会が行われている。本木地区でも行われているが、昔からやっている地域の運動会がだんだん無くなってきた。福間中学校で行っている花見地区の運動会は自治会の力も非常にある。中学生は、ボランティアとしても競技にも参加するし、ブラスバンドがオープニング演奏をして非常に盛り上がる。自治体の運動会というのは各々の地域でいろいろな問題があるかもしれないが、また何かそういうのがあったらいいなと思う。もちろん市の主催行事も行いつつ、それぞれの自治体に働き掛け、活動を活性化するような機会があるといいなと思った。世代間の催しもそうだが、自治体の力をもう1回再生させるような働き掛けができたらいいなと思った。

【会長】

先ほどの4-①の意見の中に今の意見も取り込めれば、そういうものを復活させようという自治体も出てくるかもしれない。何より小・中学生の活躍の場や経験の場になる。ブラスバンドの発表機会がたくさんあるとモチベーションが高まる。このスポーツで繋がろうという4-①は少し次のアクションプランでは検討して充実していく。ここですべてが成し遂げることができるかもしれない。

【委員】

「スポーツ拠点施設整備の調査研究」（4-④、20 ページ）について、環境を整備する上で調査研究はとても大事だと思うが、この調査研究が進まないことには環境整備は進まないと思う。これが進まないのはなぜか。

【事務局】

福間と津屋崎にある体育施設について、計画の策定段階では、今後の活用方法としてそれぞれ維持するのか、それとも両方ともなくして新しいものを作るのかなど、当時は財政面も含めて方向性が見えていませんでした。結果的に福間体育センターを改修するということが決まり、今ある施設を維持して使っていくことになりました。これまでは調査研究ができていませんでしたが、今後は、今ある施設を維持してそれをどう活用していくのかということに進んでいきます。

【委員】

今の話だと学校体育施設というのがすごく重要なポイントになると思う。総合的に新しい施設ができないのであれば、既存のものをどう使うのかとなれば、学校体育施設関係のことを入れるべきではないのか。実際のところ、どの学校の運動場もひどい状態であるし、施設も老朽化しているところもあるので、そういったことも総合的に視野に入れるべきだと思う。市民体育館より学校体育施設をスポーツ活動の場として利用している人のほうが多いと思う。

【会長】

「学校体育施設開放の推進」（4-③、19 ページ）がまさに必要なのかなと思う。

【委員】

このアクションプランの全体的に、数値が適正なのかもう1回精査すべきであろう。数値が適正だったのかというような調査をしっかりとしないと、これ自体の精度が甘くなってくる。それと、どこまで数値目標に入れるのか。主催事業だけ記載するのか等ははっきりしておかないと、曖昧になっていくと思う。例えば体育協会の中のどの協会が実施している事業が出ているとか、ある程度具体的な数字が必要なのではないか。その具体的な数字がないと、この目標が達成できたのかどうかというのは、確認しづらい。

もう一つは5年間という目標が長い気がする。今期は2019年度から行っているが、この間にコロナ禍があって、外部の人材を入れられない時期というのが出てきている。同じく3-③のスポコン広場のタグラグビーについても、これは福岡教育事務所が主管となり、宗像区の小学校の体育科研究会が主催でやっていたものだが、現在は集合型の大会としては行っていない。このように実施されていないものもあるので、そういうものが出てきたときには途中で軌道修正するなど、別のものに置き換えて諮るということも必要だと思う。

1-③についても、目標がこれだけでいいのだろうか。実際、新体力テストについて年間に使っている学習時間は2、3時間程度なので、他の目標も必

要ではないか。PTAについて言うと、PTAは任意加入の団体なので、全員が会員になるわけではないというのが、最近の宗像地区での動きである。過大規模校では多少会員が抜けたとしても、そもそもの絶対数が多いので、研修に呼び掛けたとしてもある程度の人が集まるが、小規模校は人が集まらないということも視野に入れたいといけな

い。また、教員の働き方改革の関係で、授業の総時数削減というのが、国の方から起きている。今まで余裕時数という枠で、各学校に使える時間があつたが、そこをそぎ落とすよう文部科学省からの指示に基づいて来年度の教育計画を作っており、この活動をどうやっていくのかも検討しないといけな

い。要は、事業目標を設定していく際に当事者であるPTAや学校などの意見を聴取しながら策定していただくとありがたい。本当に世知辛い世の中になり、学校としてはいろいろな人と出会わせる時間を確保したいが、物理的に難しくなるような状況がこの1年で出てきているので、そういうことを視野に入れていただくとありがたい。

【会長】

今いくつか課題はご指摘いただいたが、過去・現在のところでいうと、この報告書の通りで数字として指標にはいくつか課題はあるものの、コロナ禍を乗り越え、数値も増えてきているところである。実際にはアクションプランの2024年度からについては、先ほど指標の具体的な数値の問題や、「スポーツしよう・みよう・ささえよう・つながろう」という4本柱は維持されるものだと把握し考えている一方で、最後にご指摘いただいたように、5年スパンで見えていくのは難しい部分があると思う。そういうのも次回のアクションプランの策定の際には活かしながら、完璧なアクションプランは難しいかもしれないが、今日ご示唆いただいたことを盛り込みながらやっていければと思う。

【委員】

私はスポーツ推進委員をしていて、体力測定などで子どもたちとの関わりを持ちながら、それとは別に地域の活動で高齢者サロンというのを、ひと月に1回行っている。これは、最初に30分ぐらい軽い体操して、そこからいろいろな運動やレクリエーションをするが、体を動かしたいという人は多い。高齢者が楽しく動けるスポーツって何があるのかと思いながら、コロナ禍前はスポーツ推進委員の研修に結構頻繁に行っていたので、そこでいろいろなことを勉強して取り入れていたが、ここ数年は大会や研修も少なくなり、なかなか新しいことにチャレンジできない。

若い人たちや子どもたち、高齢者と一緒に組み合った運動もいいが、そこは能力差があるので、まずは高齢者だけで楽しむプランができたらいいなと思いつつ、毎月高齢者と向き合っている。簡単に手を伸ばさず動きだけでも、30分ぐらいすると皆さんが『今日は久しぶりに運動して気持ち良かった』という言葉が聞ける。スポーツ推進委員のメンバーがたくさんいて、いろいろな知恵があるので、その人たちから意見を聞きながら日々の活動を行っている。

【会長】

今日も情報共有の場になっているが、研修の場や、情報共有の場があることで積極的にその研修を組み立てて、地域でそういう指導ができるような方が増えてくるとますますいいし、アクションプランにうまく溶け込ませるといいと思った。今後の取り組みについても絡めながら、アクションプランに繋がるような話もあったのでアクションプラン見直しにはなるかなと思う。

今後の取り組みでこんなことをしてみたらというのがあれば伺う。

【委員】

一つ言えるのは、現状把握を改めて行った方がいいと思う。こういうプランを作ったけれども、現状はこうであり、それに対して何が必要なのかというのをもう一度見直してみると、やるべきことが出てくるのではないかな。

【委員】

1-③で、事業目標の指標が体力テストだけではなくて、外部人材を導入したりして体育の授業活動を充実させるという指標にしていくといいのではないかな。実際本校でも、福津市のタグラグビー協会の方にクラブに教えに来てもらっているし、福間小や福間南小は水泳を外部委託で行っている。各学校からどんなことを今やっていて、どんな人が外部からの人材として取り入れているのかをリサーチして目標を設定するといいのではないかな。

【会長】

先ほどのご指摘や数値の現状把握のところを含めてこれもよく考えないといけない。1-③の事業目標の指標は体力テストの結果になっているのでボール投げなどの記録が指標となり得る。一方で、そのプロセスの中で外部人材がどれだけ入ってきたか、どういう取り組みをしたかという現状把握がうまくできない部分がある。例えば、「週1回以上スポーツする人の割合」とか、そういったところに集約して見ていくという、取り組みの成果と数値の成果を少し切り分けないと、先ほどご指摘いただいたような現状把握というのでできない部分もある。

次回のアクションプランには、そういった仕組みもクリアにして、先ほどご指摘あったように現状把握をしっかりできて、改善していけるようになればと思うので、またそういうところでご助言ご意見いただけたらと思う。

今後の取り組みについても少し意見をいただいたので、次のアクションプラン策定に繋げていければと思う。

では議事が終わったので、事務局に戻したいと思う。

【事務局】

本日出た意見をもとにしながら、新たなアクションプランを今後作っていく必要があります。現在の2019年度から2023年度までの中にある指標そのものが、先ほどもいろいろご意見がありましたが、指標として本当に相応しいのか疑問になるようなものもいくつかありますので、指標そのものの方向性を少し変えて、新たなやり方で次のアクションプランを考えていきたいと

思います。事務局から、ある程度たたき台を作り、それを皆さんに見てもらいながら作り上げたいと思います。

次回につきましては、先ほど最初に会長からお話がありましたが、皆さんの任期も今年の3月までですが、今年度末までに1回もしくは2回ほど会議を実施したいと思います。

次回日程：2月26日（月）午後6時半から

（了）